

元副会長 小宮賢一氏のご逝去をいたむ

本会の元副会長小宮賢一氏には平成2年6月3日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人日本都市計画学会

小宮さんは、昭和9年に東大建築学科を卒業、内務省官房都市計画課を振り出しに、兵庫県、防空研究所等を経て、終戦後は、戦災復興院、建設省にて活躍の上、首都建設委員会計画第二課長、建設省住宅局建築指導課長、北海道建築部長、神奈川県建築部長の各要職を歴任され、その後に続く後輩にとって、創意と卓見に満ちた輝く目標となる業績を残された。

戦災復興期に、新時代へ向かっての抱負を託して起草された建築法草案や、戦災都市における土地利用計画標準は、小宮さんの卓越した洞察と工夫が随所に盛り込まれたものであり、建築基準法の起草・制定に当たってはその中心的役割を勤められた。その際、世論認識が未だ十分でなかったため見送られた提案には市街化計画区域外の開発留保措置や旧来の建築線指定に代わる敷地割整備案などがあり、後年市街化調整区域や、地区計画の手法となったことを思うと、その先見性が偲ばれる次第である。統いて首都建設委員会で首都圏整備委員会に発展する草分けに当たられ、建設省建築指導課長として建築基準法の生みの親に統いての育ての親をつとめられ、ついで北海道建築部長時代には住宅地対策、都市防災対策、寒地建築の指導等に尽力され、統く神奈川県建築部長時代には住宅改良事業、防災建築街区造成事業の推進、住みよい県土とする住宅5カ年計画、教育施設、各種福祉施設、県新庁舎の整備等に力を注がれた。

神奈川県退職後、昭和41年日本鋼構造専務理事を、昭和52年からは大同大学教授として活躍されたが、同時に昭和41年より神奈川県建築審査会委員、50年から同会長を、また昭和47年から中央建設工事紛争審査委員を、また昭和50年からは建設省建築審議会委員、全国建築審査会協議会監事を、58年から同協議会会長を勤められた。

当学会に対しては昭和35年より理事として、同44年より4カ年にわたって副会長としてご指導を受けた。また都市計画協会理事を昭和46年より10年間つづけられ、その後も、小宮さんは何時までも若々しい進取な、学究的な熱心さで、各学会、協会の行事や研究会に進んで参加され、若い我々に対しても、いかにも平易に接し、温かく指導されたので、その人柄は、後輩にとって誠に優しい兄上のように思え、つい大先輩を小宮さんと呼ばして頂いてしまいます。昨年も、また今年もご指導を受け、ご温容に接していたので、余りにも突然の御逝去の報に接したときは痛恨の思いとどまりませんでした。

謹んで心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。



元・日本都市計画学会会長 楠瀬正太郎

略歴

生年月日 明治44年9月10日生
本籍地 東京都墨田区太平1丁目9-1
昭和9年3月 東京帝国大学工学部建築学科卒業

9年5月 内務省大臣官房都市計画課嘱託
13年2月 兵庫県建築技師
14年8月 防空研究所内務技師
20年11月 戦災復興院技師
23年7月 建設省建築局建築指導課技師
25年3月 建設省住宅局建築指導課長補佐
26年4月 首都建設委員会計画第二課長
27年10月 建設省住宅局建築指導課長
32年6月 北海道建築部長
35年5月 神奈川県建築部長
41年5月 日本鋼構造協会専務理事
52年4月 大同工業大学教授

(公職関係)

昭和50年5月～58年5月 建設省建築審議会委員
47年11月～55年11月 中央建設工事紛争審査会委員
55年11月～62年11月 中央建設工事紛争審査会特別委員
41年12月～45年12月 神奈川県建築審査会委員
50年2月～平成2年 神奈川県建築審査会会长

(団体学協会関係)

昭和50年10月～58年10月 全国建築審査会協議会監事
58年10月～平成2年 全国建築審査会協議会会长
35年5月～48年4月 日本都市計画学会理事
44年5月～48年4月 日本都市計画学会副会長
46年5月～56年6月 都市計画協会理事

(表彰)

昭和50年7月 建設大臣表彰
56年11月 黙四等旭日小綬章

小宮 賢一（こみや けんいち）

略歴（小宮賢一）

- 1911（明治44）年 東京に生まれる
1934（昭和9）年 東京帝国大学工学部建築学科卒
1934（昭和9）年 内務省大臣官房都市計画課嘱託
1938（昭和13）年 兵庫県建築技師
1939（昭和14）年 防空研究所内務技師
1945（昭和20）年 戦災復興院技師
1952（昭和27）年 建設省住宅局建築指導課長
1957（昭和32）年 北海道庁建築部長
1960（昭和35）年 神奈川県建築部長
1969（昭和44）～1973（昭和48）年度日本都市計画学会副会長
1977（昭和52）年 大同工業大学教授
1981（昭和56）年 煉四等旭日小綬賞授与
1991（平成2）年 逝去

元・日本都市計画学会会長 楠瀬 正太郎



小宮 賢一

小宮さんは、昭和9年に東大建築学科を卒業、内務省官房都市計画課を振り出しに、兵庫県、防空研究所等を経て、終戦後は、戦災復興院、建設省にて活躍の上、首都建設委員会計画第二課長、建設省住宅局建築指導課長、北海道建築部長の各要職を歴任され、その後に続く後輩にとって、創意と卓見に満ちた輝く目標となる業績を残された。

戦災復興期に新時代へ向かっての抱負を託して起草された建築法草案や、戦災都市における土地利用計画標準は、小宮さんの卓越した洞察と工夫が随所に盛り込まれたものであり、建築基準法の起草・制定に当たってはその中心的役割を勤められた。その際、世論認識が未だ十分でなかったため見送られた提案には市街化計画区域外の開発留保措置や旧来の建築線指定に代わる敷地割整備案などがあり、後年市街化調整区域や、地区計画の手法となったことを思うと、その先見性が偲ばれる次第である。続いて首都建設委員会で首都圏整備委員会に発展する草分けに当たられ、建設省建築指導課長として建築基準法の生みの親に続いての育ての親をつとめられ、つづいて北海道建築部長時代には住宅宅地対策、都市防災対策、寒地建築の指導等に尽力され、続く神奈川県建築部長時代には住宅改良事業、防災建築街区造成事業の推進、住みよい県土とする住宅5ヵ年計画、教育施設、各種福祉施設、県新庁舎の整備等に力を注が

れた。

神奈川県退職後、昭和41年日本鋼構造専務理事を、昭和52年からは大同大学教授として活躍されたが、同時に昭和41年より神奈川県建築審査会委員、50年から同会長を、また昭和47年から中央建設工事紛争審査委員を、また昭和50年からは建設省建築審議会委員、全国建築審査会協議会監事を、58年から同協議会会长を勤められた。

本学会に対しては昭和35年より理事として、同44年より4ヵ年にわたって副会長としてご指導を受けた。また都市計画協会理事を昭和46年より10年間つづけられ、その後も、小宮さんは何時までも若々しい進取な、学究的な熱心さで、各学会、協会の行事や研究会に進んで参加され、若い我々に対しても、いかにも平易に接し、温かく指導されたので、そのお人柄は、後輩にとって誠に優しい兄上のようと思え、つい大先輩を小宮さんと呼ばして頂いてしまいます。昨年も、また今年もご指導を受け、ご温容に接していたので、余りにも突然の御逝去の報に接したときは痛恨の思いとどまりませんでした。

謹んで心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。